

温泉問答・湯あたり御免

菅田一郎（R S K－O B）

これまであちこちの温泉に脚を伸ばした。日本全国の温泉宿からいけば雀の涙かも知れないが数が増えるにつれより気に入ったところを探すようになった。

たかが温泉、されど温泉ではあるのだが、最近「たかが・・・」の感が強くなってきた。それは日本の温泉の置かれた浅はかさにあるような気がする。

さて、それはさておき私見問答が受けるかどうか。

初めは熱く、慣れれば心地よくと行きますかどうか。

Q そもそも温泉とは？

A 温泉源から採取されるときに温度が25℃以上で、19種の溶存物質のうちいずれか一つを含むこと。

Q そんなこと誰が決めたの？

A 「温泉法」なのであります。昭和23年制定、直近では平成19年11月30日改正。温泉の掘削、採取は都道府県知事の許可制とか、温泉の成分、禁忌症等の表示は10年に一度の定期的な分析が必要とか、国民保養温泉の指定は環境大臣が指定するなどいくつかの決まりごとがあります。

Q 温泉法で万々歳？

A 残念でした。温泉ブームに「待った！」乱開発で枯渇の危機と騒がれています。しかも温泉法は天下のザル法、専門家によると法に定められている含有物質の種類も基準となる数値も、地下から出てきたほとんどのお湯が温泉と認められる甘いもの。60年前には想定されなかった掘削技術の進歩で何処でも地中奥深くからお湯をくみ上げる時代になった。さらにザルの目は大きく

- ・数キロ先の源泉からパイプを引いて宿の湯船にお湯を入れても
- ・5キロ先の源泉をタンクローリーで運んでも
- ・温泉水が足りないので水を倍にして薄めても
- ・源泉の鉄分が多く赤いので濾過して透明なお湯にしても
- ・源泉のお湯に入浴剤を入れて着色しても

「温泉法」違反ではない。

さらにさらに、お湯が枯渇してきて、循環浴槽が増え、レジオネラ菌の事故があちこちに発生、死者まで出る始末。お役所が源泉掛け流しにも一律に塩素消毒を強制する県も出てきた。何のために温泉に入るのか。

Q 何がブームなの？

A 少し古いが平成16年度、温泉を備えたホテル、旅館は全国で1万5,332軒、ほぼ頭打ちになる一方で、近年の「温泉ブーム」を支えているのが日帰りの公営温泉などの公衆浴場だ。全国で約7,300施設。

Q 何でそんなに増えたの？

A 竹下内閣の「ふるさと創生」（1988~1989年にかけて各市町村に対し地域振興に使える資金1億円を交付した）や自治体の公共事業を景気対策として進めたことが温泉急増に拍車をかけた。

Q 地球が痛いイタイと悲鳴を上げている？

A 温泉掘削はより深く、より奥へと向かっている。5年度以降、掘削許可が下りた5,111件のうち、1,000~1,500メートルまでの深さの掘削は1,348件1,500メートル以上の掘削は1,048件にものぼっている。掘削により源泉数は増加し、温泉の湧出量は昭和38年度の3倍にも上がっている。現在（平成16年度）は毎分271万リットルが湧出している計算だ。このうち自然湧出量は11年度をピークに5年連続減の77万5,642リットルで残りは動力でくみ上げている。

Q 温泉はどこでも出るの？

A 地中の温度は、地球内部からの熱により「地温勾配」といって、全地球を平均すると100mごとに3度上昇します。（場所によって異なり、2度~10度）。つまり、修善寺や熱海など古くからの温泉地帯でない平野部でも、仮に地温勾配を100m/3度とすれば、1,000m掘削すると、

16度（静岡県の年間平均気温）+（3度/100m・1,000m）=46度の温泉が出る訳です。

近頃は掘削技術の進歩により、古くからの温泉地帯ではない平野部でも、大深度ボーリングにより温泉を掘り当てることが可能になり、老人福祉施設や、都市郊外の健康ランド、都心部の大規模マンションに温泉が併設されることが多くなりました。

Q 温泉を掘るのにいくらお金がかかるの？

A ざっと1億あればいいかな。たんす貯金の多いあなた庭でも掘ってみたら。
ご参考までに・・・

初期費用として

- ・ 調査費 200万~400万円（調査内容、面積により異なります）
- ・ 掘削費

	深度1,000m	深度2,000m	深度3,000m
地質・軟質	4,2000千円	5,2000千円	5,8000千円
地質・硬質	5,2000千円	6,5000千円	7,3000千円

- ・ ポンプ設置費：600万～800万円（ポンプ設置深度：地表～350mを想定）
- ・ 維持管理費用
 - ポンプ入れ替え（ポンプオーバーホール費を含む/2年間）
 - 200万～300万円（ポンプ設置深度：地表～350mを想定）
 - 井戸洗浄費：別途（ただし、洗浄するケースは少ない）

Q 温泉はいつか枯れるの？

A ご心配なく。温泉は雨水が地下深く浸透し、数百メートル地下の岩盤の亀裂まで染み込み、岩盤に含まれる各種ミネラルを溶かし込み、地熱によって暖められたものであるからです。ただし、火山性温泉や地震により太い亀裂が塞がれ、湯量が減少することはたまにあります。

Q 国民保養温泉地とは？

A 温泉法（1948）に基づき、「温泉の公共的利用増進のため、温泉利用施設の整備及び環境の改善に必要な地域」として環境大臣が指定した温泉地。温泉の効能が顕著であること、湧出量が豊富であること、付近の景観が優れていること等が指定の要件とされ、温泉利用を中心とした健全な保養地としておおいに活用されることが期待されている。指定後は、施設の整備及び環境の改善に関する計画（保養温泉地計画）が環境大臣によって策定される。

1954年に酸ヶ湯温泉（青森県）、四万温泉（群馬県）が指定されて以来、2004年現在で全国91箇所、総面積16,652.75haが指定されている。

岡山県では湯原温泉、奥津温泉が指定されている。

Q 日本の温泉データで参考になるものがあれば教えて

A 数字に興味のない人はとばして

①温泉地の数	3,133ヶ所	都道府県別ベスト3	北海道、長野、新潟
②泉源の数	28,003ヶ所	都道府県別ベスト3	大分、鹿児島、北海道
③湧出量	毎分2,772,022ℓ	都道府県別ベスト3	大分、北海道、鹿児島
④温泉施設の数	22,700ヶ所	都道府県別ベスト3	静岡、長野、北海道
⑤年間延べ宿泊者数	132,677,295人	都道府県別ベスト3	北海道、静岡、長野

Q 温泉の種類は？

A いろいろあるが種類や効能は脱衣所に掲示してある

主なものは、単純泉、二酸化炭素泉、炭酸水素塩泉、塩化物泉、ナトリウム硫酸塩泉、カルシウム硫酸塩泉、マグネシウム硫酸塩泉、含鉄泉、硫黄泉、酸性泉、放射能泉など。

Q 宿の選び方は？

A 我流で言えば

旅の楽しみは、宿を選び、アクセスを決めた段階で半分は終わる。

いくらシビアに宿を選んでもチェックアウトするまで良否は分からない。

問題を宿だけに絞れば、宿も遣り繰り算段、経費節減に勤しむ。宿泊客より日帰り客重視、度が過ぎると部屋、寝具、トイレ、風呂の清掃手抜き、料理の質の低下にはしる。手間のかかる部屋食よりお食事処でまとめて面倒を見るところも増えているし、大型施設ではバイキングは当たり前、小型卓上コンロに素材を入れて客に面倒をみさすところも多い。冷めた天ぷらや乾いた刺身は論外である。

それでも期待通りの宿に当たればうれしい。

宿ばかりに注文をつけてはいけない。温泉人口の増加で、ユーザーのマナーが落ちている。掛け湯をせずにおちんちんブラブラチャポンはやめてほしい。

- ・ 自然湧出の源泉かけ流し（足元湧出が最高だが極めて稀）
- ・ 単純泉よりにごり湯
- ・ 小ぶりの風呂（湧出量に分相応の大きさ）、大浴場は循環・加温・加水が多い。
- ・ 屋上大露天風呂はナンセンス
- ・ 部屋数 10 以下、大きな宿は客に目が行き届かない
- ・ 温泉街の宿より山奥の一軒宿、温泉街は景色が悪く、値段が高く、湯は給湯、料理は質より量のところが多い
- ・ 一流老舗旅館より、民宿、ロッジ、ペンションにも良いところあり
- ・ 日帰り湯をやっていない宿が好ましい。きわめて少ない。
- ・ 大都市から遠い温泉地、値段が比較的安い
- ・ こだわりの料理、きめ細かい配慮（温泉宿のコース料理ではなく）
- ・ 清潔（部屋、寝具、洗面所、風呂、お食事処など）
- ・ 清掃、お湯の入れ替えは毎日が好ましい
- ・ 美人若女将（必須条件にあらず）
- ・ 女将と話が出来る（必須条件）
- ・ 口コミランキング 4.5 以上（楽天、じゃらんなど 5 点満点）
- ・ 宿泊料金 15,000 円以下

Q 旅のツールは？

A これも長年の経験から

- ・ 行き先を絞り込む。東北とか南九州とか
- ・ YAHOO! の「路線」から目的地までの交通手段を選ぶ
- ・ GOOGLE マップで場所と車、徒歩での所要時間、ルートを検索
- ・ 楽天トラベルでレンタカーを選び、キャンペーンで割引のところへ申し込む
- ・ 宿のHPを開ける。HPの良し悪しで宿のセンスがわかる。HPない宿も多い
- ・ 楽天、じゃらん、ニフティなどで宿の口コミを見る。5 点満点の評価あり
- ・ 場合によっては楽天、じゃらんに宿を申し込むこともある。ポイントがつく
- ・ 旅行者の実体験のレポートも参考になる
- ・ 温泉ガイドブックを読む。どれも似たり寄ったりの内容。

Q もう一度行ってみたい温泉宿は？

私的評価 ★★★★★・・・おすすめ
★★★★・・・まあまあ
★★★・・・もういい

A ベスト3をあげれば

・ 蔦温泉旅館（青森県★★★★★）

泉質 ナトリウム・硫酸塩・炭酸水素塩・塩化物泉

効能 外傷、慢性皮膚病、動脈硬化症など

十和田樹海と呼ばれるブナの原生林の中にある一軒宿。大正時代に建造された本館と源泉が足元から湧出するヒバの浴槽「久安の湯」が自慢。大町桂月が愛した温泉地で日本百名泉にも選ばれている

浴槽の底から湧くまろやかなお湯と湯玉が身体を撫でる。ああ至福！！

青森駅から車で1時間半、バスもあるが本数が少ない。十和田湖、奥入瀬溪谷、八甲田山、酸ヶ湯温泉、谷内温泉にも近い。

蔦温泉旅館のHP

http://www.thuta.co.jp/index_p.cgi

・ 古遠部温泉（青森県★★★★★）

泉質 含石膏弱食塩泉

青森県南津軽郡平川市（旧淀ヶ関村）にある山あいの一軒宿。

決して立派な建物ではないが温泉らしいひなびた風情がある。

湯量の多さに腰を抜かした。

源泉 42℃、毎分 800ℓの湧出量全てをかけ流し、浴室に温泉が川のように流れている。湯の花が浴室に大量に付着しているばかりか、旅館の外に堆積物のドームを形成していることで有名。浴室で仰向けになり、浴槽からあふれ出る湯を楽しむ人が多く見られる。これを「トドになる」と言う。浴槽の端にコップが置いてあり、湯を飲むことも出来る。飲泉としても効果あり。

1975年（昭和50年）頃、黒鉱のボーリングをしたところ、自噴した。



古遠部温泉



古遠部温泉全景



おとなしいワンちゃん

古遠部温泉HPなし、レポートご参考までに

<http://www.rakuda-j.net/onsen/aomori/furutobe.htm>

・ 壁湯温泉 旅館福元屋（大分県★★★★★）

泉質 単純温泉

町田川の川沿いにある一軒宿。川沿いの洞窟風呂が有名で、源泉は足元湧出である。温度は温いが岩の間から透明なお湯がこんこんと湧き出す。混浴だが若いカップルは平気、あの美人の彼女の白い肌が気になってついつい長湯することに。こじんまりした宿で自家米を使うなど料理にもこだわっている。贅沢を言えば単純温泉が少しものたりないが2度宿泊した



福元屋玄関

福元屋のHP

<http://www.kabeyu.jp/>

Q 他にないの？

A 記憶に残った温泉宿の体験寸評

（註・時間が経っているところは様子が変わっているかも知れません）

・ 層雲峡高原温泉 大雪高原山荘（北海道★★★★★）

大雪山系に抱かれた一軒宿、夏季のみ営業。連泊した。

あるのは大自然、雑念は洗い流される



大雪高原山荘

- ・ 帯広・北海道ホテル（北海道★★★★★）
煉瓦造りの大型リゾートホテル、部屋は道産木材多用、モール泉
- ・ 茅沼温泉 モールガーデンホテルむらぎし（北海道★★★）
他の客おらず。珍しいコーラ色のモール温泉、つるつる感あり
- ・ オーロラ温泉 オーロラファームヴィレッジ（北海道★★★）
30万坪の敷地に温泉小屋が点在。野趣満点だが馴染めなかった



オーロラファームヴィレッジ内？風呂

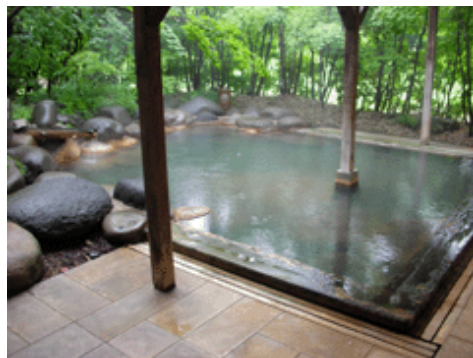


同宿泊棟

- ・ オンネトー温泉 景福（北海道★★★）
青白色のにごり湯。内風呂は足元湧出。連泊した。印象薄い
- ・ 雌阿寒温泉 国民宿舎野中温泉（北海道★★★★★）
景福の隣、民営の国民宿舎。湯の花沈殿の素朴な湯
- ・ 北湯沢温泉 かわせみ（北海道★★★）
ブルーシートと廃材の通路を抜けると露天風呂が。マニア向け
- ・ 上の湯温泉 銀婚湯（北海道★★★★★）
一万坪の雑木林に露天風呂が点在、内風呂もグー、道内ピカイチ



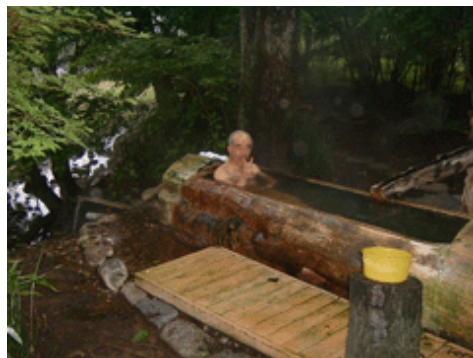
銀婚湯



銀婚湯露天風呂



銀婚湯露天風呂



門外不出、森の妖怪？

- ・ 濁川温泉 新栄館（北海道★★★★）
他の客なし、超鄙びた風呂にぞっこん。話好きな老主人が配膳



新栄館内風呂

- ・ 湯の川温泉 KKRはこだて（北海道★★★）
公共の宿で清潔、風呂、料理合格、なぜか雰囲気が味気ない
- ・ 恵山温泉 恵山温泉旅館（北海道★★★★★）
強酸性の湯で石鹸使えず、料理は魚中心、女将と話弾む。再訪したい



恵山温泉旅館



恵山温泉旅館内風呂

- ・ 函館 ラピスタ函館ベイ（北海道★★★★★）
朝食が海鮮丼のバイキングで人気、最上階に一部源泉掛け流しあり
- ・ カルルス温泉 鈴木旅館（北海道★★★★）
低・高温別の5つの浴槽。団体客の喧騒に出くわしうんざり
- ・ 新見温泉 ホテル新見本館（北海道★★★★★）
奥ニセコの老舗宿、若女将が場違いの美しさ、でも子持ちと判明



新見本館内風呂

- ・ 十勝岳温泉 凌雲閣（北海道）
富良野から近いので日帰り入浴、お湯の濃さにびっくり



凌雲閣の露天風呂

- ・ 酸ヶ湯温泉（青森★★★★★）
超有名、恥ずかしがる方が恥ずかしい混浴千人風呂、人類みな兄弟
- ・ 谷地温泉（青森★★★★★）
極上の混浴湯、素朴な湯宿、ミルク色の湯に津軽弁がはずむ

・ 下風呂温泉 まるほん旅館（青森★★★★）

漁師町にある本州北端の乳白色の湯、津軽海峡冬景色、家庭的



まるほん旅館



津軽海峡冬景色

嶽温泉 小島旅館（青森★★★★）

岩手山の麓、白い濁り湯が青森ヒバの浴槽に溢れる。貸し切りだった



小島旅館



小島旅館の内風呂

田沢湖休暇村（秋田★★★★）

ロケーション良い、風呂も合格、雪のブナ林は最高。二度行った



田沢湖休暇村



田沢湖休暇村露天風呂

・ 乳頭温泉郷 鶴の湯温泉（秋田★★★★）

あまりにも有名、日本の温泉の原風景。言うことなし。有名になりすぎ



鶴の湯温泉

- ・ 日景温泉 (秋田★★★★)

古びた大きな旅館、風呂は良い。大雪で鉄道が不通になった

- ・ 秋ノ宮温泉 鷹の湯温泉 (秋田★★★★)

古川から凍結路を 90 分、迎えに感激、深さ 130 cm の立ち風呂ほか



鷹の湯温泉

- ・ 大湯温泉 安部旅館 (秋田★★★★)

格安の 3 泊湯治パックで宿泊、さすがに安いだけの待遇



安部旅館

- ・ 後生掛温泉 (秋田★★★★)

湯治の一軒宿、「馬で来て足駄で帰る後生掛け」箱蒸し風呂、泥風呂など多様



後生掛温泉湯治部

- ・ 泥湯温泉 奥山旅館（秋田★★★★）
自然湧出の硫黄泉、アルミサッシが変色する濃さ、ガス事故もあった
- ・ 鉛温泉 藤三旅館（岩手★★★★★）
深さ 1.30mの足元から自然湧出。東北らしい大きな湯治宿
- ・ 大沢温泉(岩手★★★★★)
河畔の混浴大露天風呂が名物。東北の湯治場の雄



大沢温泉

- ・ 藤七温泉 彩雲荘(岩手★★★★★)
標高 1,400mの雲上の露天風呂からは岩手山が正面に、絶景かな
- ・ 中山平温泉 琢琇（宮城★★★★）
はりきり女将、小奇麗だがお高く留まっている感じ値段も
- ・ 峩々温泉(宮城★★★★)
団体客シャットアウトの木の香りがする素朴な宿。最近評判が落ちている
- ・ 東鳴子温泉 旅館大沼（宮城★★★★★）
8つの風呂、温泉経営に熱心な主人。食事も配慮されている



大沼旅館

- ・ 滑川温泉 福島屋(山形★★★★★)

大正時代で止まったような古風な湯治宿、お湯も良い



福島屋

- ・ 姥湯温泉 榊形屋 (山形★★★★★)

これぞ秘湯、海拔1300m奇岩がそそり立つ絶壁にへばりつく



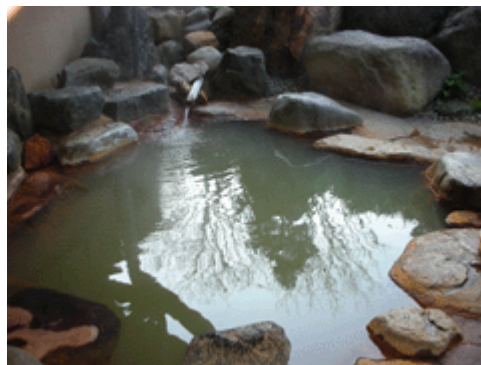
榊形屋

- ・ 白布温泉 西屋旅館 (山形★★★★★)

江戸時代の雰囲気伝える萱葺き入母屋づくりの湯滝の宿

- ・ 土湯温泉 鷺倉温泉 (福島★★★★)

飲泉可、少しすっぱいが美味しい。設備、料理、愛想まあ合格点



鷺倉温泉露天風呂

- ・ 休暇村裏磐梯 (福島★★★★)

ロケーションは抜群。料理もバイキングにしてはグー。風呂は普通

- ・ 早稲沢温泉 民宿森川荘 (福島★★★★★)

お湯は最高、女将さんが感じ良い。客が多いと朝餅つき、餅バイキング



民宿森川荘



女将と客で餅つき

- ・ 沼尻温泉 沼尻高原ロッジ（福島★★★★）
登山家田部井淳子経営のしゃれたロッジ。湧出量多く熱い
- ・ 高湯温泉 静心山荘（福島★★★★★）
鄙びた宿だがリピーター8割、女将が採ってきたきのこ料理は絶品



静心山荘内風呂

- ・ 四万温泉 積善館（群馬★★★★★）
昭和5年築の「元禄の湯」は国の登録文化財。テレビにしばしば
- ・ 奥山田温泉 満山荘(長野★★★★★)
露天風呂から北アルプスの絶景、お湯、食事、部屋、言うことなし



満山荘の部屋、写真より広い

- ・ 有明 中房温泉（長野★★★★）
海拔1,462mの湯量豊富な一軒宿。なぜか印象が薄い
- ・ 渋温泉 炭乃湯（長野★★★★）

お猿と混浴の地獄谷温泉から引湯。屋上の大浴場はイタダケナイ

- ・ 加賀井温泉 一陽館（長野★★★★★日帰りのみ）
赤茶色のお湯にビックリ。浴室のそばの源泉井戸からボコボコと湧出
- ・ 天狗温泉 浅間山荘（長野★★★★）
究極の赤い湯、タオルは赤褐色に、鉄鉱泉沸かし湯
- ・ 新穂高温泉 槍見館(岐阜★★★★★)
檜づくりの内風呂二つ、露天風呂九つ。ロケーションは良い



槍見館内風呂

- ・ 福池温泉 元湯孫九郎（岐阜★★★★★）
湯にこだわっている。料理も秀、女将馬鹿丁寧、若女将美人
- ・ 勝浦温泉 休暇村南紀勝浦（和歌山★★★★）
休暇村の部屋、食事、風呂どこも同じ、欠点が無いのが欠点
- ・ 湯の峰温泉 湯の峰荘（和歌山★★★★）
お風呂も多種、部屋数 26 の大型旅館でなぜか印象薄い
- ・ 椿温泉 富貴（和歌山★★★★）
温泉好きは高評価。お湯A級、食事、設備B級
- ・ 長湯温泉 大丸旅館(大分★★★★★)
五回行っても女将は覚えてくれない。でも炭酸濃度の高さはピカイチ



大丸旅館



長湯温泉 ガニ湯

- ・ 釜の口温泉 新清館（大分★★★★）
にごり湯の露天風呂秀逸。石油ストーブの油臭に閉口



新清館



新清館露天風呂

- ・ 筋湯温泉 喜安屋（大分★★★★）
食事は美味しかった。地熱発電からの給湯で湯は味気ない
- ・ 明礬温泉 山田屋旅館（大分★★★★★）
外来湯をやめた老舗宿、料理、お湯、女将の接客最高
- ・ 鉄輪温泉 かんぽの宿別府（大分★★★★）
お湯も印象に残らない。街中で景色は良くない
- ・ 杖立温泉 白水荘（熊本★★★★）
そういえばこんなところにも泊まった、忘れていた



白水荘



杖立温泉

- ・ 地獄温泉 清風荘（熊本★★★★★）
江戸時代から変わらぬ「すずめの湯」が名物、灰白色の混浴泥湯
- ・ 山川温泉 華柚（はなゆう）（熊本★★★★）
こじんまりしたきれいな宿、客おらず風呂独占、料理もグー



華柚

- ・ 阿蘇内牧温泉 かんぽの宿阿蘇（熊本★★★★）

阿蘇五岳の遠望は最高、どこも同じかんぽの宿



かんぽの宿阿蘇から阿蘇五岳アッソー

- ・ 人吉温泉 たから湯（熊本★★★★）

部屋、料理、風呂すべて完璧、でも疲れる。宿代 23,000 円/人

- ・ はげの湯温泉 わいた山荘（熊本★★★★）

青色の湯は珍しい。茶菓子がいっぱいありたいで興ざめ



わいた山荘露天風呂



はげの湯温泉

- ・ 小浜温泉 旅館国崎（長崎★★★★）

和室 10 の家族的な宿。チマチマした風呂、食事もうれしい



旅館国崎

- ・ 湯之谷温泉 湯之谷山荘（鹿児島★★★★★）

建物は立派ではないが、乳白色の硫黄泉は何度も入りたくなる

- ・ 新湯温泉 霧島新燃荘（鹿児島★★★★）
白いにごり湯の大きな露天風呂、立派とはいえない建物
- ・ 丸尾温泉 旅行人山荘（鹿児島★★★★）
大隈半島、錦港湾、桜島を一望、ユーザーランキング上位の大型旅館
- ・ 栗野岳温泉 南州館（鹿児島★★★★★）
西郷隆盛ゆかりの宿。四種類の異なる源泉を持つ
- ・ 湯川内温泉 かじか荘（鹿児島★★★★★）
湯船の底からポコポコとお湯が。こんなところに良い宿が



かじか荘



かじか荘浴室

- ・ 妙見温泉 おりはし旅館（鹿児島★★★★）
7万坪の敷地に大正時代の建物、しっとりした老舗宿
- ・ 市比野温泉 みどり屋（鹿児島★★★★★）
レトロなタイル張りの風呂にツルツル湯、夫婦で経営の老舗宿



市比野温泉みどり屋

- ・ 吹上温泉 中島温泉旅館（鹿児島★★★★）
大浴場には朝から地元のお年寄りが。料理はグー、景色はダメ
- ・ 桜島マグマ温泉 国民宿舎レインボー桜島（鹿児島★★★★）
大浴場は日帰り優先か、桜島の遠景が唯一の取り柄



レインボー桜島から

- ・ 鹿児島温泉 城山観光ホテル（鹿児島★★★★）

あまりにも有名な大型ホテル、桜島を眺めての風呂が売り、多分循環湯



城山観光ホテルから桜島の日の出

- ・ 指宿温泉 休暇村指宿（鹿児島★★★）

砂蒸し湯土葬の妻がそばにいて

- ・ 指宿温泉 秀水園（鹿児島★★★）

名門旅館、玄関で仲居が並んでひれ伏しお出迎え、気配りは良いが・・・

Q 結局、何が言いたいのか？

A 上がり湯の独り言

最近、あちこちの温泉地に見られるのは、大きな宿が廃業している姿です。中には朽ちかけているホテルも見かけます。取り壊す経費もないのでしょうか。また、数年前のガイドブックで名物老舗旅館を見つけ、インターネットを開けてみると「廃業」の二文字が。女将が歳を取り後継ぎがいなかった様子です。栄枯盛衰、団体客が押し掛けたのは昔の話。客の嗜好の変化についていけないところは寂れています。

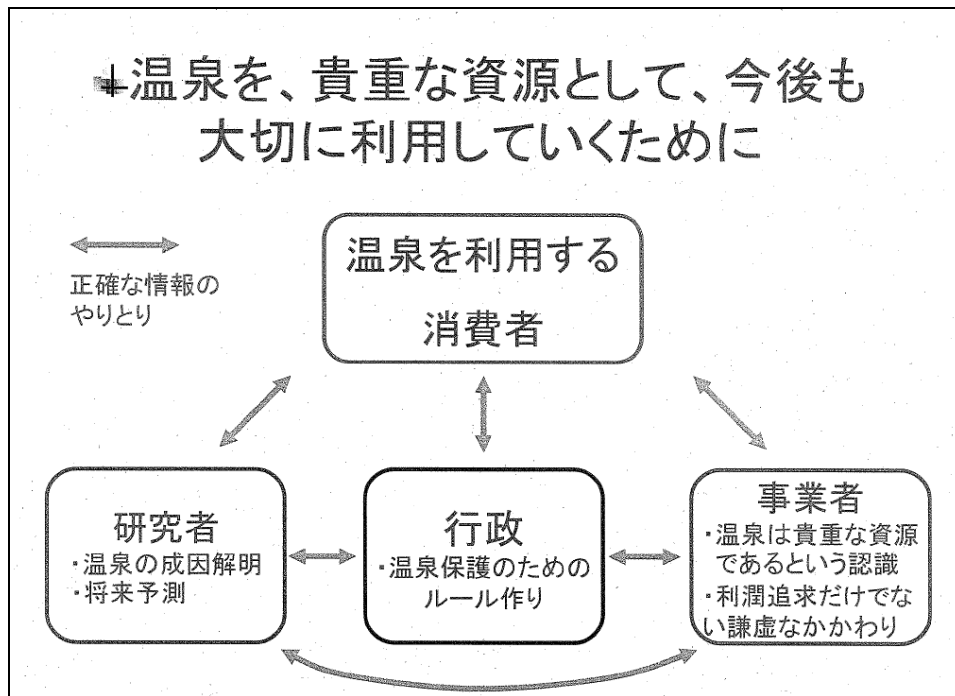
さりとて湯布院や黒川温泉が今もてはやされ、多くの客が押し掛けています。

ここもやがて荒れ果てて行く心配は無きにしもあらず。

今一度、ユーザーも含めて、温泉とはどうあるべきかを自問していく時期に来ていると思います。

ささやかに、真面目に本当の温泉を提供している宿が長続きするはずです。

次の資料を引用させていただき、仕舞い湯とさせていただきます。



神奈川県温泉地学研究所 板寺一洋氏「温泉行政の諸課題に関する懇談会」資料より

「参考資料」

- ・ 温泉の保護と利用に関する懇談会中間報告
- ・ 毎日新聞、産経新聞E N A K
- ・ 三井金属資源開発（株）M I N D E C O
- ・ 環境省
- ・ 日本温泉研究所
- ・ 温泉研究所

以上

